

◆ 今週のコメント

- インフルエンザの定点当たり報告数は0.84(57例)で、過去5年間平均値(0.70)を上回っており、増加傾向を示しています。なお、全国及び近畿6府県(滋賀県を除く)では、流行の目安である1.00を超えています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.34で、過去4年間平均値(0.18)に比べ多い状態が続いており、第45週以降増加しています。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.83で、過去5年平均値(13.72)を下回っていますが、第43週以降増加傾向を示しており、今シーズンで最も多くなっています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 二類:結核 4例(喀痰塗抹陽性 2例, 無症状病原体保有者 1例)
【1月以降の累積報告数 350例(喀痰塗抹陽性 110例, 無症状病原体保有者 30例)】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.84	57
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.83	362
	② 水痘	0.83	34
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	31
	④ RSウイルス感染症	0.34	14
	④ 突発性発しん	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
アデノウイルス2型(2)	不明(第37週) 下気道炎(第36週)	NP FC, NP	肺炎球菌(1)	かぜ症候群(第41週)	NP
アデノウイルス3型(3)	熱性けいれん(第30週) かぜ症候群(第29週) 咽頭結膜熱(第28週)	NP NP NP	マイコプラズマ・ ニューモニエ(2)	かぜ症候群(第42週) かぜ症候群(第40週)	NP NP
コクサッキーウイルス A4型(1)	かぜ症候群(第35週)	NP	インフルエンザ菌b型 以外(2)	かぜ症候群(第42週) かぜ症候群(第41週)	NP NP
血清型病原大腸菌(1)	かぜ症候群(第42週)	FC	インフルエンザ菌b型 (1)	不明熱(第41週)	NP
黄色ブドウ球菌(4)	感染性胃腸炎(第44週) 感染性胃腸炎(第45週) かぜ症候群(第42週) かぜ症候群(第42週)	FC FC NP FC, NP			

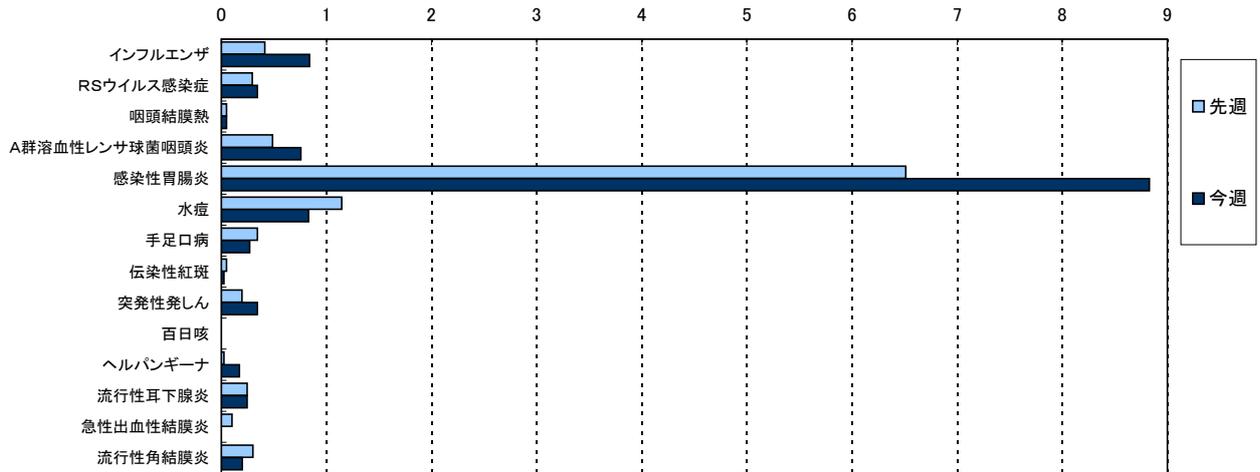
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注)京都市のデータは、平成20年12月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

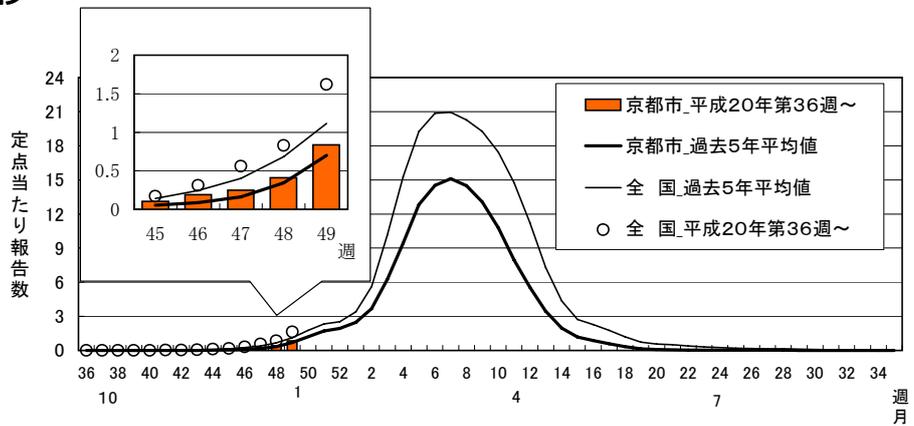
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第49週)と先週(第48週)の定点当たり報告数の比較



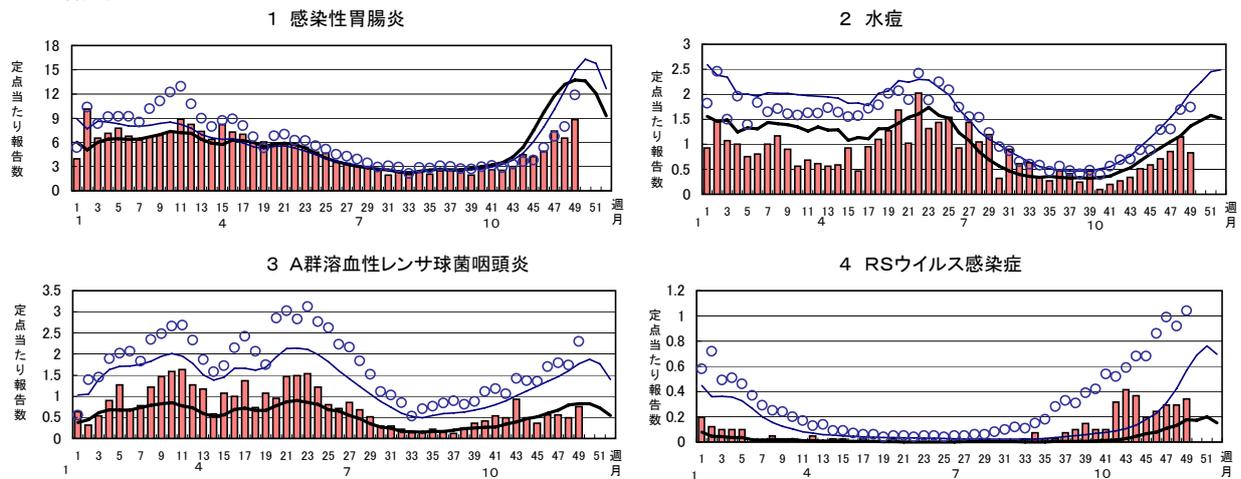
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第45週	7
第46週	13
第47週	17
第48週	28
第49週	57
累積報告数 (第36週以降)	127

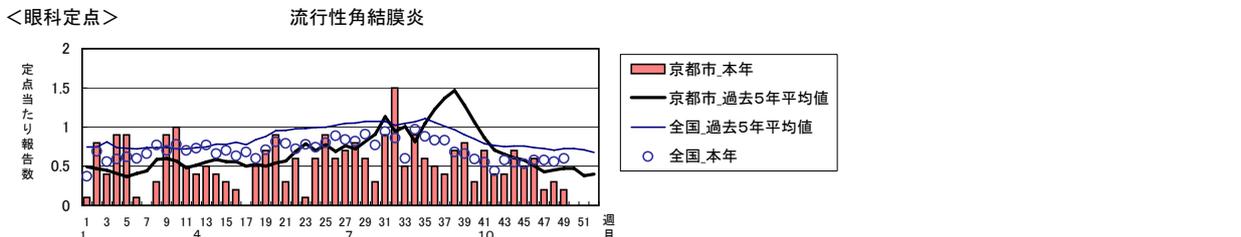


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



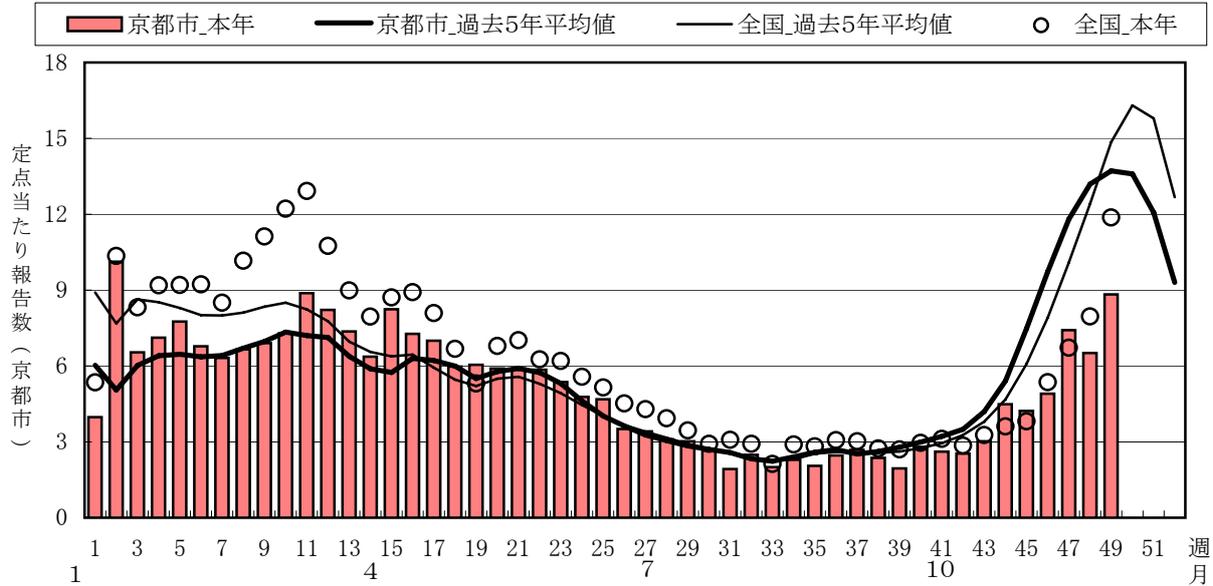
今週(第49週)のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.83で、過去5年平均値(13.72)を下回っていますが、第43週以降増加傾向を示しており、今シーズンで最も多くなっています。

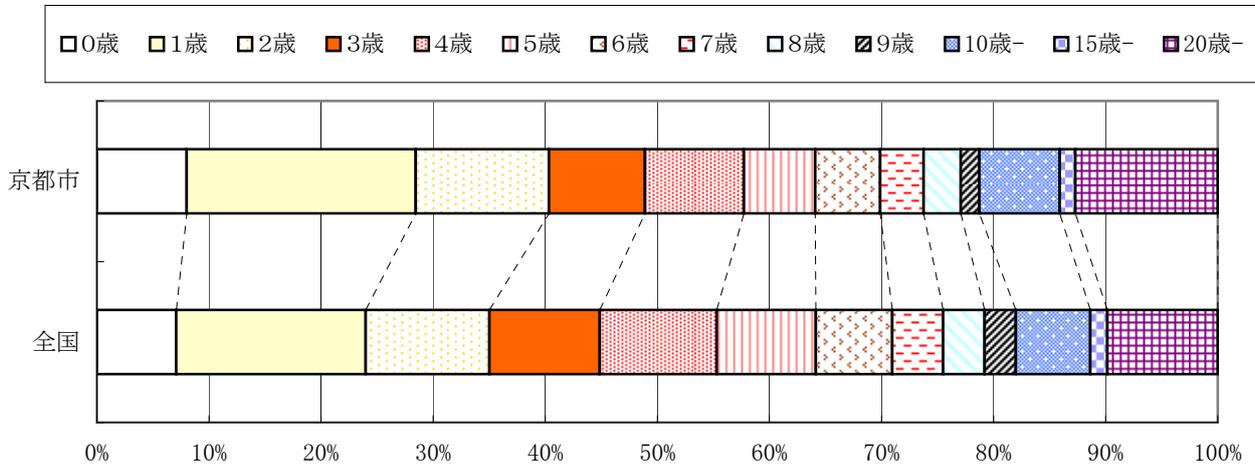
年齢階級別割合をみると、本市及び全国とも、1歳の割合(20.4%, 16.9%)が最も多く、次いで本市では20歳以上が12.7%、全国では2歳が11.0%となっています。

第48週及び第49週の行政区別定点当たり報告数をみると、11行政区中8行政区で増加しており、特に東山区及び南区の報告が多くなっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市及び全国の年齢階級別割合



行政区別定点当たり報告数の推移(第48週及び49週)

